岡崎市社会資本整備総合交付金
「乙川リバーフロントＱＵＲＵＷＡ戦略地区」事後評価　議事録

日　時：令和３年３月３日（水）ほか
場　所：オンライン会議にて開催
出席者：
（評価委員）
委員：豊橋技術科学大学教授　井上　隆信　氏
委員：名城大学教授　鈴木　温　氏
委員：名古屋市立大学准教授　三浦　哲司　氏
委員：日本政策投資銀行次長　加藤　秀行　氏
（事務局）
岡崎市総合政策部企画課係長　鈴木
岡崎市総合政策部企画課主事　増澤
岡崎市都市整備部拠点整備課副課長　冨田
岡崎市都市整備部拠点整備課係長　山本
岡崎市都市整備部拠点整備課主査　濱田
（傍聴人）
なし

事務局	（「乙川リバーフロントＱＵＲＵＷＡ戦略地区」の、指標、実績、指標達成状況、評価について説明）
井上委員	指標１の「本地区の魅力発揮に関する市民等満足度」について、コロナ禍の影響で、当地区に来訪する市民、観光客を対象とした対面方式によるアンケート調査ができなかったため、市民を対象とした無作為抽出での郵送式アンケートに変更したことで分かったことだが、指標とアンケート調査の方法に齟齬があったのではないか。
事務局	イベント来場者を対象としたアンケート調査は、施設利用者の意見を効率的に集約できる一方で、イベントの開催状況や天候に左右されること、また、市民満足度を適切に反映しているとは言い難いため、次期計画では事後評価で採用した方法で評価したいと考えている。
鈴木委員	コロナ禍の影響で従前値と同一の手法で値が計測できなかったため、参考値として取り扱うことはやむを得ないと思うが、フォローアップにおいては従前値と同一の方法で値を計測して評価することも必要であると考える。
鈴木委員 加藤委員	サンプルも変わっているし、郵送やネット調査は厳しめの意見が多く出る傾向にあるため、単純な比較は困難である。籠田公園を個別に取り上げて分析したことはアプローチとして評価できる。籠田公園の満足度が高い要因は。
事務局	設計段階から、市民や沿線住民を巻き込み地域の課題解決に向けてワークショップ等を重ねたこと、公民連携を視野に入れ日常的に活用する意欲のある民間事業者等にヒアリングし、イベントが実施しやすいレイアウトや、キッチンカーが駐車できるスペース、営業活動に必要な電源施設を配置するなど利用者の意見を積極的に取り入れたことが効果を上げた要因であると考えている。 また、高質な公共空間を演出するために設計者をプロポーザル選定し、質の高いデザインが実現できたことも一因であると評価している。
鈴木委員 加藤委員	コロナ禍でのニーズにマッチし、非常にうまく言った事例だと思う。
三浦委員	改善の方針に、フォーラムやシンポジウムを通じてまちづくりの普及啓発に努めると記載があるが、恐らくフォーラムやシ

	ンポジウムは関心のある人、ＱＵＲＵＷＡに熱心な方が参加しがちである。満足度を上げようと思うと、ＱＵＲＵＷＡに馴染みのない方々にどうアプローチしていくのかということがポイントになってくると思う。
事務局	経済原則に従って動く民間事業者に対しては、スマートシティの人流分析のデータを軸としたアプローチを進めているところである。 周辺地主に対しては、このエリアでまとまって土地を動かす絶好の機会であることを働きかけている。 市民を含む観光目的の来訪者に対しては、メインターゲットである西三河 160 万人に情報が波及するように観光プロモーションの強化を進めている。また、世界的なイベントであるＷＲＣ（世界ラリー選手権）や主人公が徳川家康公に決定したＮＨＫ大河ドラマの「どうする家康」を代表とする広域的にＰＲできる機会を逃すことがないよう積極的に働きかけていきたいと考えている。 これら３側面が欠けたるところがないように、ＱＵＲＵＷＡに興味がなくても岡崎のまちがすてきと思ってもらえるような動きを今進めている。
井上委員	指標４の「東岡崎駅の乗降客数」について、総合所見に一体的なまちづくりが完了直後であることが影響したと記載があるが、整備スケジュールに変更は無く、指標設定時点に想定されていたことを考慮すると適切な評価であるとは言えないのではないか。
事務局	指摘のあった表現を見直したい。
井上委員	指標６の「ＱＵＲＵＷＡ上の公共空間を利活用した民間事業活動日数」について、令和元年度に大きく増加した要因は。
事務局	籠田公園の再整備が完了し供用開始されたことをきっかけに、籠田公園を利用した民間活動日数が大幅に増加したことが要因である。籠田公園ではキッチンカーがある風景が日常として浸透しつつある。
鈴木委員	ワークショップなどの住民参加のプロセスも非常に積極的に実施されている。多くの市民団体と協力して盛り上げており、非常にうまくいっていると感じる。 ＱＵＲＵＷＡ戦略の目的は回遊性を高めることが大きい。回遊性を評価する指標があると望ましいと考える。画像解析カメ

	ラによって得られたデータの活用はどのように考えているのか。
事務局	画像解析カメラは設置して間もなく、また設置台数も十分ではないため現時点で回遊性を可視化することは困難である。 今後は画像解析によって得られたデータを活用しフィジカルデータベースでのストリートのブランディングにチャレンジし、民間投資の誘導につなげていきたいと思っている。 併せて、公共投資の効果を可視化することで、投資が次の民間の投資を呼ぶとか、あるいは人流の人混みがさらに次の人混みを呼ぶとか、相乗効果を生み出すためのツールとして使用したいと思っている。
事務局	（今後のまちづくり方策とフォローアップの計画について説明）
井上委員	来街者の滞在時間を増やすことが重要である。来街者の満足度が向上し経済効果を十分に発揮にしてもらえるよう今後のまちづくりに期待する。
鈴木委員	ＰＲが不足している気がする。ＳＮＳなどのＩＴツールを活用したスタンプラリーなど、ゲーム性をもって回遊の促進を図るような施策が次期計画では求められると考える。
三浦委員	コンパクトシティを推進していくうえで、地域公共交通や自動車交通についてはどのように考えているのか。
事務局	自動車依存度が高い西三河エリアにあって、本地域を訪れる人をいかに渋滞に巻き込まずに、あるいは新たに渋滞を発生させずに誘導するための施策は必要であると認識している。 現在、スマートシティの取り組みの中で駐車場の空き情報を集約しＷＥＢ上で閲覧できるような取り組みを進めているところであるが、まだ力強い取り組みには足りない。 また、ウォーカブルを補完するモビリティについても検討が必要だと考えている。

【結果】

この事後評価案が妥当であることを判断する旨、委員一致で採決された。